

# 謹賀新年

『文化的な土壌の中で』  
小諸市教育委員会  
教育長 小林 秀夫

市民の皆様には、平成の締めくくりとなる新春を特別の思いでお迎えになったことと思ひます。

旧年中は、公民館活動にご支援をいただき、ありがとうございます。

小諸には、長い歴史の中で培われてきたレベルの高い文化が根付いています。

物流の拠点であった小諸には、常に新しい情報や質の高い文化が入ってきました。それらを発展させていったのは教育の力でした。

江戸時代、士族のための藩校「明倫堂」がありました。商人をはじめ、民間の子弟のために寺子屋や私塾がありました。明治時代になると、

高度な教育を受けることができる「小諸義塾」ができました。小諸は、一流の教師陣から最先端の学問や古典を学ぶことができた。学生の多くは、卒業後それぞれ地域の人となって、学んだことを広げていきました。

小学校教育も大きな役割を果たしました。学校を会場にして講演会が開かれ、製糸場では、小学校の先生方を講師として夜間学校も開かれました。

昭和の時代になると、多くの文化人が小諸に疎開してきました。住民の中には直接教えを受ける人もいました。影響を受けたのは、門下生だけではなく、著名な芸術家の作品にふれたり、その名前を知ったりするだけでも、文化的な関心が高まっています。

そのような歴史を土台にして、今も多くの小諸市民のみならず、様々な文化的な活動

をされています。その中心的な役割を担っているのは、公民館です。

文化センターでは、シニア教室や女性学級をはじめ多くの講座が開かれています。そこには願いを一にする仲間が集まっています。地域の公民館でも、習い事や勉強会が開かれています。

皆様のお宅に飾られている真新しいカレンダーには、これからご家族が所属しているサークル活動の開催日や音楽会、講演会などの予定が書き加えられていくことと思ひます。

多くの市民の皆様のご協力によって、公民館活動がさらに盛んになっていきますよう、本年もよろしくお願ひ致します。

そのような歴史を土台にして、今も多くの小諸市民のみならず、様々な文化的な活動

『つながることの快適さ・楽しさ』  
小諸市公民館  
館長 松本 文一

市民の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は公民館をはじめ文化センターの諸事業に対しご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

新年を迎え、今年もまた「いい年でありますように」と手を合わせます。幸せに感じる毎日を送るためには、健康など個人的な面もあります。

が、周りの人との関わりを抜きにしたり、自分が生きていく社会を度外視したりするわけにはいきません。誰もが夢や生きがいをもって暮らし続けられるような地域づくりを

寄与することが公民館の大きな役目であると考えますが「つながり」があります。

かつての日本では、地域における人と人とのつながりは大変強く、それが断たれることは生活が不自由になるばかりでなく場合によっては死活問題にもなりかねず、多くの

人が地域内でのつながりを大切に考えてきました。しかし昭和の後半からでしょうか、大きな影響がなくなるに伴いつながることの煩わしさ・面倒くささといった意識が人々の中に強まり、更にそれは子どもたちにも伝わり一層人間関係が希薄化し、地域が弱体化してきました。

ところが近年、個を支え、個が生きる地域づくりには人々のつながりが不可欠であると再認識されてきています。公民館でも、面倒くさい煩わしいという思いを払拭し適度

しさを味わえるよう努めてまいります。本年も市民の皆様のご支援ご協力をよろしくお願ひいたします。

今年も【学び】と【つながり】の場を創っていきます！

